

「玉野市教育委員会地域懇談会 語ろう！玉野市の教育保育」説明内容について

地域懇談会においては次の内容で説明を行い、質問や意見交換を行った。

- 1 令和日本の教育保育はどうなる？
- 2 玉野市教育委員会は何に取り組んでいるの？
- 3 玉野市の教育課題
  - (1) 児童生徒数の減少、学校の小規模化
  - (2) 教員不足と学校現場の若返り
  - (3) 発達障害のある児童生徒数の増加
  - (4) 不登校児童生徒数の増加
  - (5) 教育環境整備の課題

【参考】当日配布のレジメ内容

I 開会

II 説明

1 令和日本の教育保育はどうなる？

- (1) 令和日本の主な課題
  - ①人口減少と超高齢社会の進展（地方都市の人口減少、都市圏への人口集中）
  - ②労働者の多国籍化、グローバル社会の進展（価値観の多様化、国際社会人材の育成）
  - ③インターネット等の高度情報社会の進展
  - ④産業構造の激変「society5.0の時代」（働き方変革、新しい起業改革の進展）

【これからの学校教育】

人口減少が進む中で、社会全体の産業構造が変化し、これまで経験したことのない社会が姿を見せてくる予測困難な時代を強く生き、幸福な社会を実現していく人材を育成する未来の学校づくりが必要

(2) 学校教育における課題

- ①子どもたちの多様化（発達障害のある児童生徒や外国人児童生徒の増加、子どもの貧困拡大、不登校児童生徒の増加）
- ②子どもの学習意欲の低下（先の見えない社会、夢や目標を持ちにくい社会）

- ③教職員の長時間勤務、家庭教育の内容も学校業務に委ねる（教職員の負担拡大、教師不足深刻化）
- ④学校現場のデジタル化が低調、情報化への対応の遅れ
- ⑤児童生徒数の減少による学校教育の維持とその質の保障に課題
- ⑥感染防止策と学校教育活動の両立

(3) 国の進める主な教育改革

①G I G Aスクール構想実現によるICT教育環境の充実

学習用端末一人一台貸与、端末を鉛筆やノートと同様に文房具の一つとして活用する次世代教育を構築（本市でも準備を進めています！）

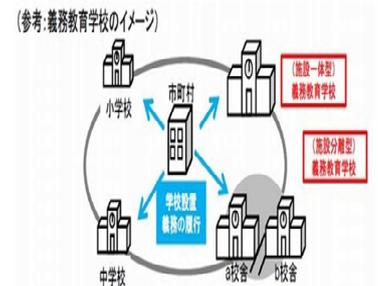
- ②幼児教育の質の向上と義務教育との連携強化
- ③小学校高学年の教科担任制導入（令和4年目途に）
- ④義務教育学校等による小中一貫教育の推進
- ⑤学びに向かう力を育成するキャリア教育の充実
- ⑥教職員の働き方改革推進
- ⑦その他

学級定数の見直し（30人学級等の検討）、多様な児童生徒に対応する多様な学びの場の検討、高校教育改革、小規模化する学校の質の担保、学校の適正規模化等

(4) 新しい形の学校設置

①義務教育学校

- ・義務教育9年間で児童生徒を育成（1年生から9年生）
- ・繋がる教育の到達点（全教員で小1から中3まで一貫教育を推進）
- ・小学5・6年の教科担任制実現（より高度な学習を推進）
- ・異学年交流学習が進み、児童生徒の豊かな心を育成
- ・教員同士で連携し、働き方改革推進



②中等教育学校

- ・中学校と高等学校が一貫教育を推進
- ・一層高度な学習活動を実施し、希望する進路確保を徹底

2 玉野市教育委員会は何に取り組んでいるの？

(1) 学力向上とキャリア教育を柱に中学校区一貫教育を推進！

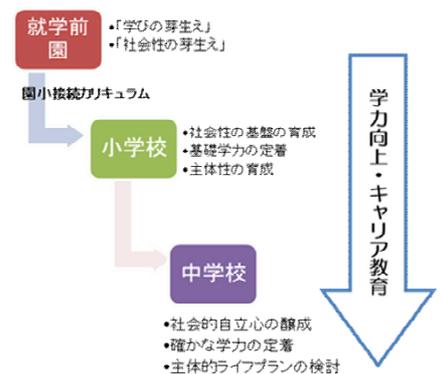
- 教育目標を共有して連携
- 発達段階に応じた教育を系統化
- 子どもの情報を共有して支援

(2) キャリア教育で人間力育成

予測不能なこれからの社会で強く生きていくために必要な資質能力を育成するため、地域を教育フィールドに活用した体験活動や働く人との交流、企業見学や職場体験等を推進

(3) 中学校区一貫教育を支える学校運営協議会を設置（コミュニティ・スクール化）

- ・学校の教育力だけでなく、地域と教育課題を共有してより効果的な教育を実現



- ・学校運営協議会で熟議（しっかり話し合っ、学校のして欲しいこと、地域のして欲しいことを洗い出して役割分担）
  - ・将来、地域の活性化に寄与する人材を育成することは、地域にも必要。
- (4) 地域学校協働本部事業（学校支援ボランティア）で協働
- ・「地域の子どもは地域で育てる！」学校を支援する地域人材活用組織を充実
  - ・様々な学校支援ボランティアの活躍、おさらい会、子ども楽級の開催
- (5) 教育環境整備状況
- ・校舎の耐震化
  - ・空調設備の整備
  - ・GIGA スクール構想の取組
    - 校内 LAN の整備
    - 1 人 1 台端末の整備
    - Wi-Fi ルーターの整備

### 3 玉野市の教育課題

- (1) 児童生徒数の減少、学校の小規模化
- 少人数学級は児童への一人一人への指導支援が手厚い。
  - 少人数学級は目が行き届き、児童の抱える課題を把握しやすい。
  - 少人数学級は地域との係わりが深くなりやすい。
  - ▲少人数学級は人間関係が固定化され、トラブっても逃げ場がない。
  - ▲少人数学級はコミュニケーション能力が育ちにくい。
  - ▲少人数学級は切磋琢磨できにくいので学習意欲が向上しにくい。
  - ▲小規模校で学力の定着に課題
  - ▲少人数学級は発達障害児の適切な行動モデルが少なく、育ちにくい。
- (2) 教員不足と学校現場の若返り
- ・市内に学校数が多いため、教員数が一層必要だが人員が不足
  - ・全県的に教職員の若返りが深刻化、教育活動の質の向上が課題
  - ・田井小・荘内小学校以外は学年単学級規模、校長教頭以外は担任教員しかいないギリギリの人員で学校を運営（法律上の定数配置）
  - ・宇野中・荘内中以外の中学校は部活動存続が課題、今後さらに深刻化（数年後には玉中、日比中も全校3学級化→教員数は半減）部活動数を削減する必要もある。
  - ・学校行事は今後一層小規模化させながら無理のない実施を構築
- (3) 発達障害のある児童生徒数の増加
- ・福祉部局との連携による市内支援体制構築＝学校園との連携強化
  - ・特別支援教育サポートチームによる支援訪問
  - ・4歳児巡回相談による要支援者の早期発見、支援継続の徹底
  - ・学校サポートスタッフ（29人）の配置による支援強化
  - ・宇野小、胸上小、荘内小での通級指導教室（個別支援）の充実

(4) 不登校児童生徒数の増加

①不登校児童生徒増加の要因

- ・家庭の送り出す力の低下（家庭環境に課題）
- ・発達障害等による集団不適應の増加
- ・ゲーム・ネット依存の児童生徒の増加

②本市の不登校対策

- ・玉野市教育サポートセンターによる支援  
教育支援室でのカウンセリング、適応指導教室（わかば教室）での不登校支援
- ・スクールカウンセラーによる支援
- ・スクールソーシャルワーカーによる支援
- ・各校での登校支援や別室登校実施のための登校支援員の配置
- ・長期欠席児童生徒ヒアリングによる実態把握・支援指示

(5) 教育環境整備の課題

- ・施設の維持更新コスト問題  
校舎、体育館、プール、エアコン、パソコン

Ⅲ 質疑応答・意見交換

Ⅳ 閉会

# 玉野市の教育課題

## 玉野市内児童生徒数の推移

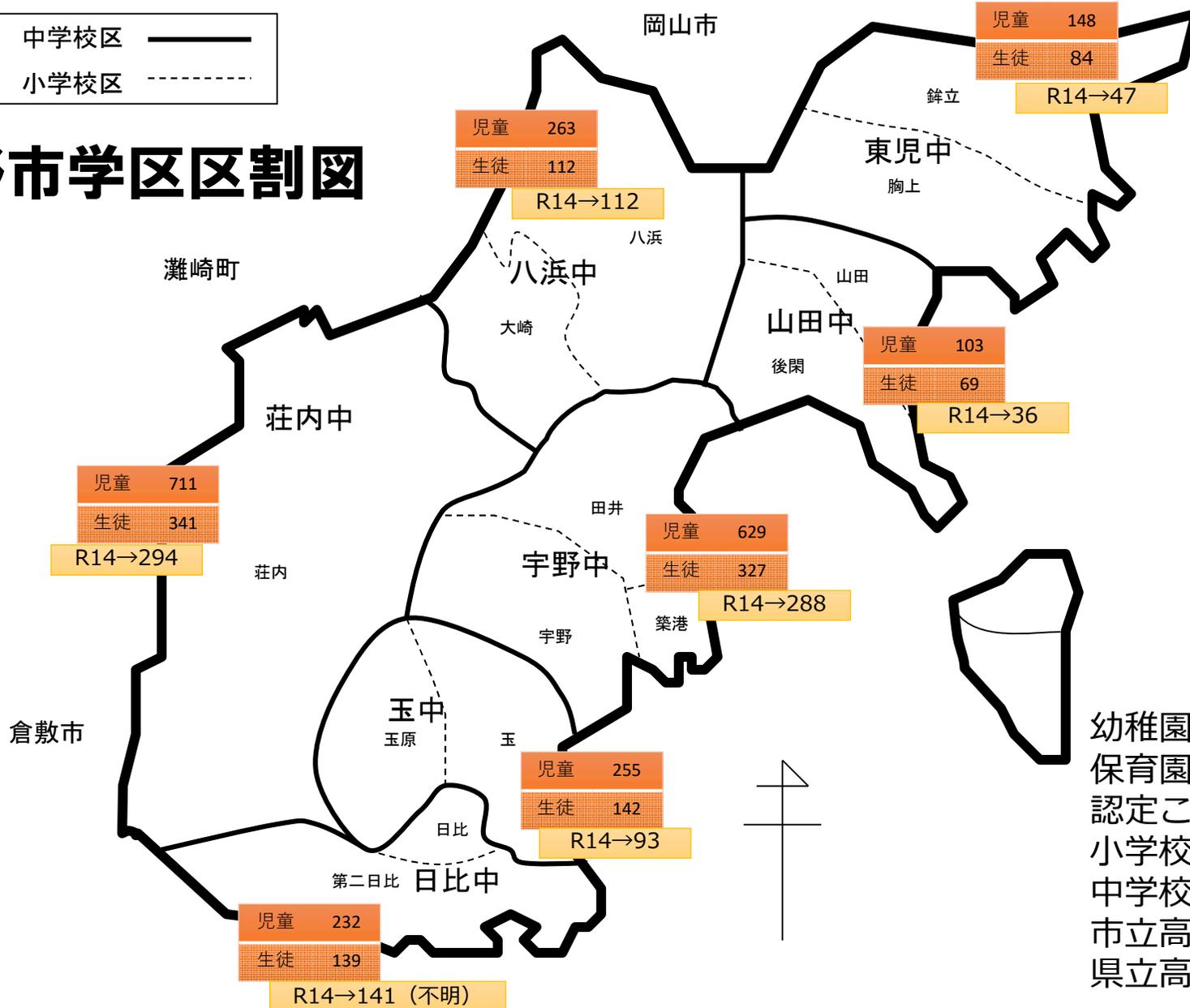
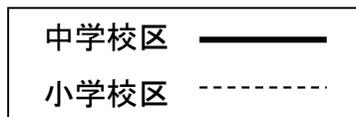
20年間で40%減少



児童生徒数の減少、学校の小規模化

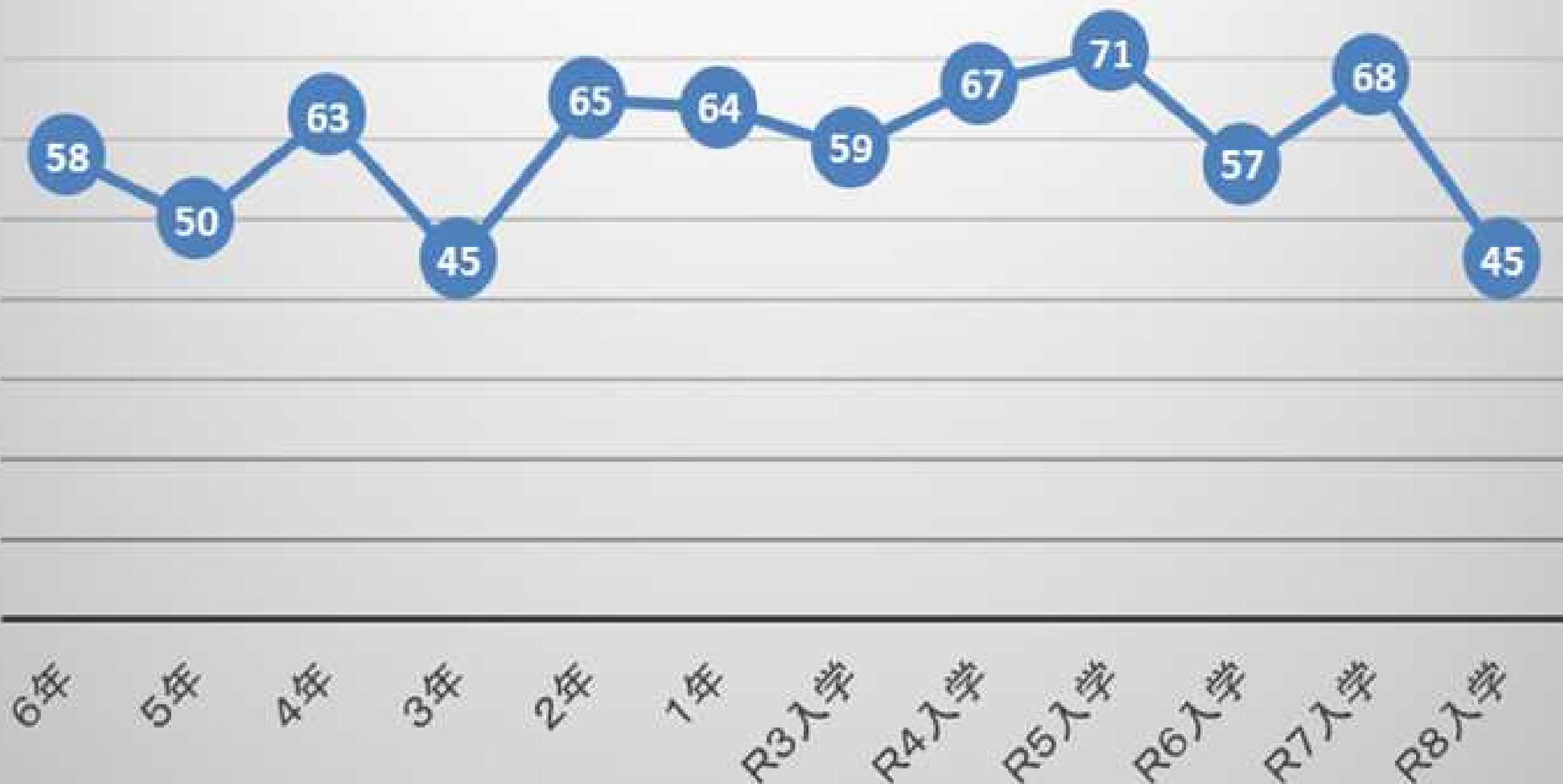
●小学校 ●中学校 ●合計

## 玉野市学区区割図

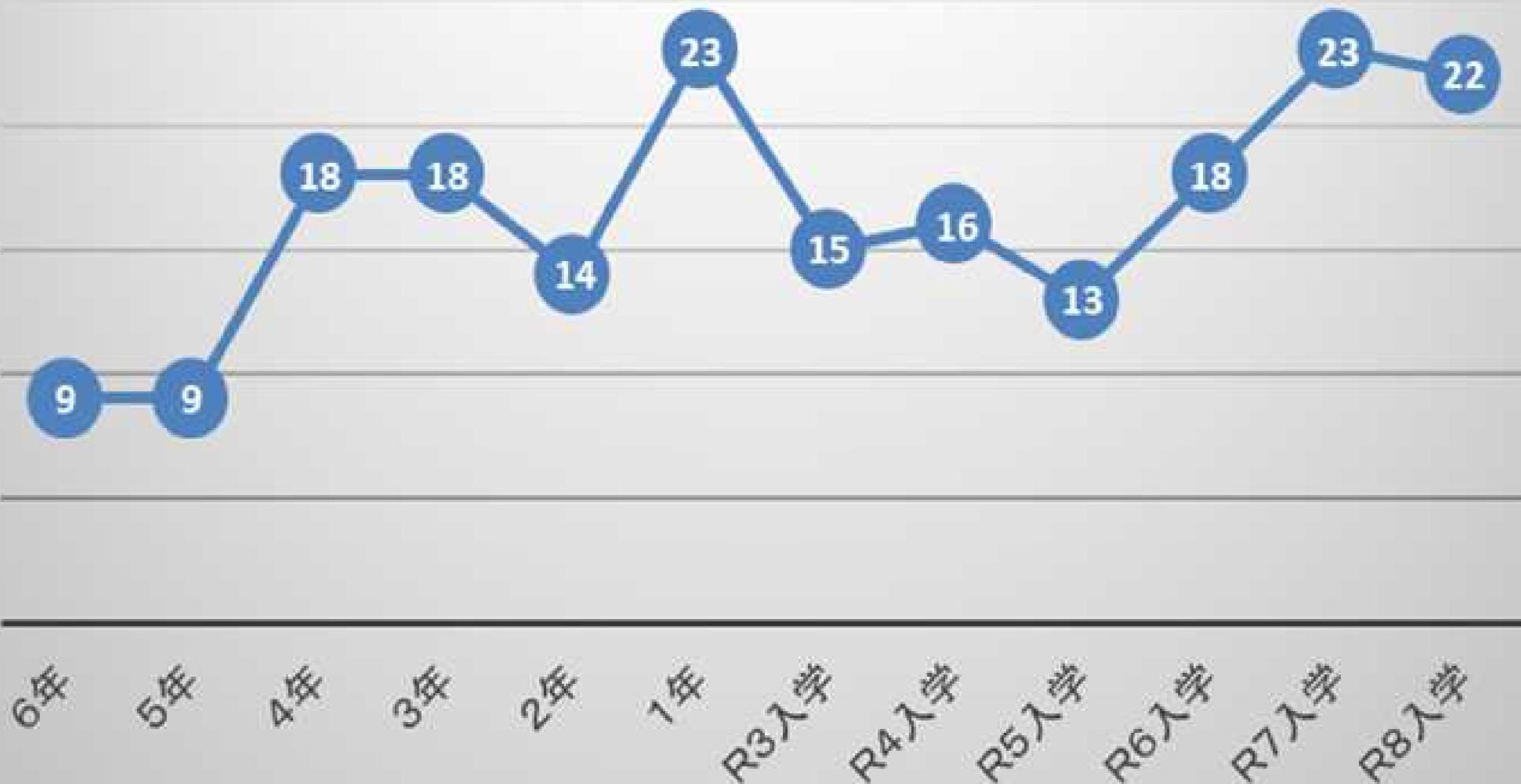


- 幼稚園：6園
- 保育園：9園
- 認定こども園：4園
- 小学校：14校
- 中学校：7校
- 市立高校：2校
- 県立高校：2校

# 田井小学校



# 築港小学校



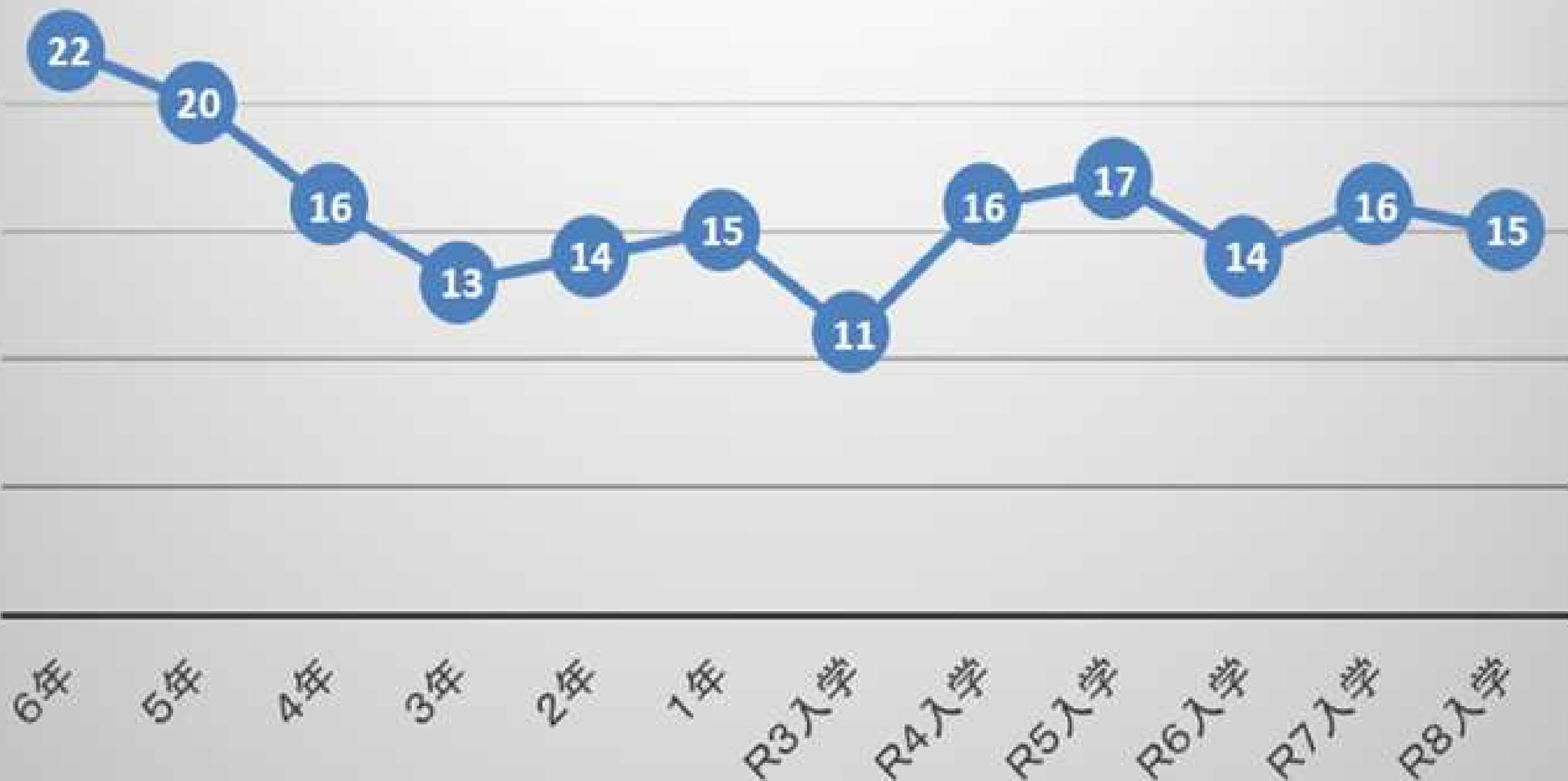
# 宇野小学校



# 宇野中学校



# 玉小学校



# 玉原小学校



# 玉中学校



全校3学級規模想定

# 日比小学校



小学校入学までに減少

# 二日比小学校



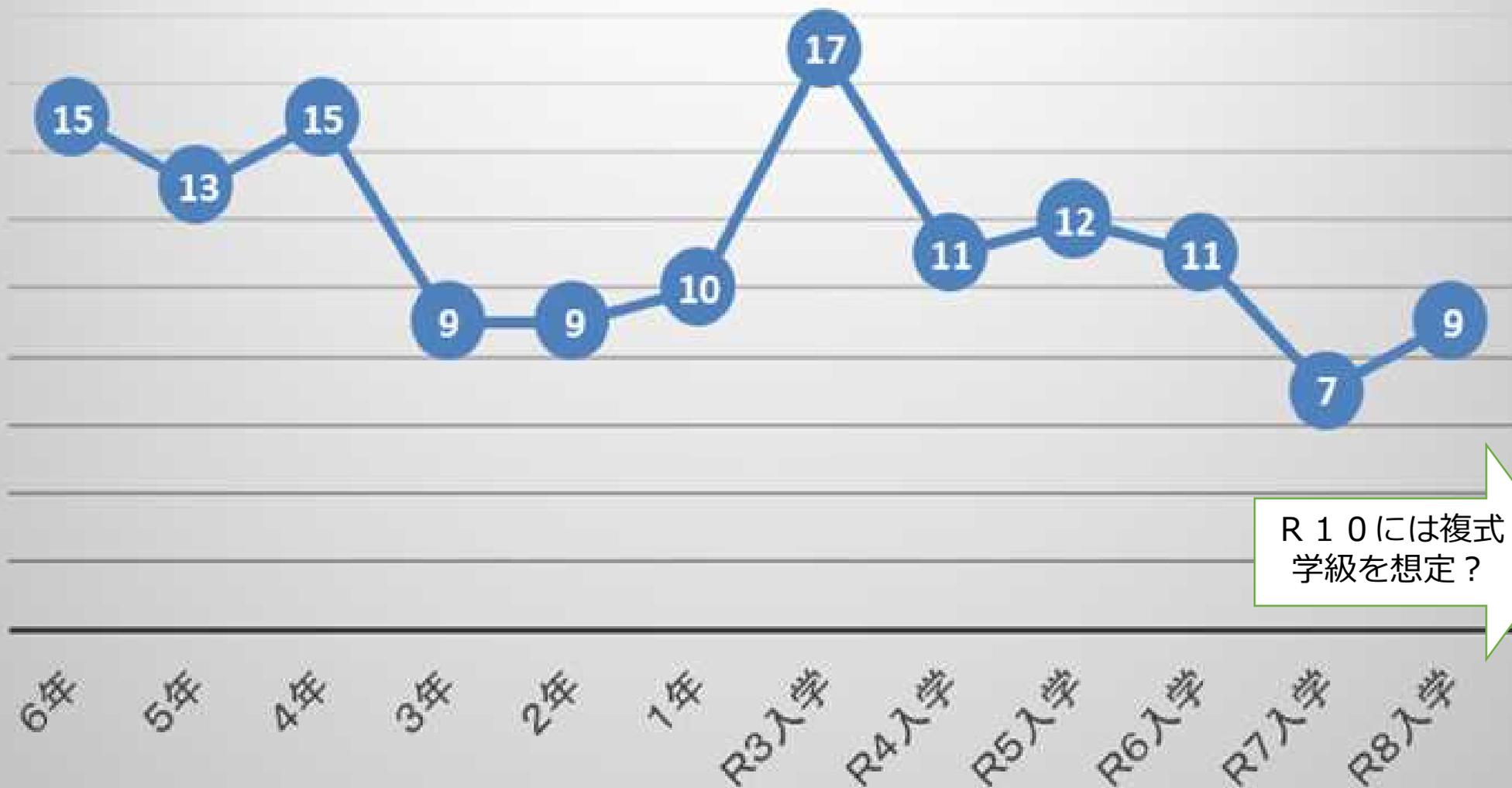
# 日比中学校



小学校入学までに減少

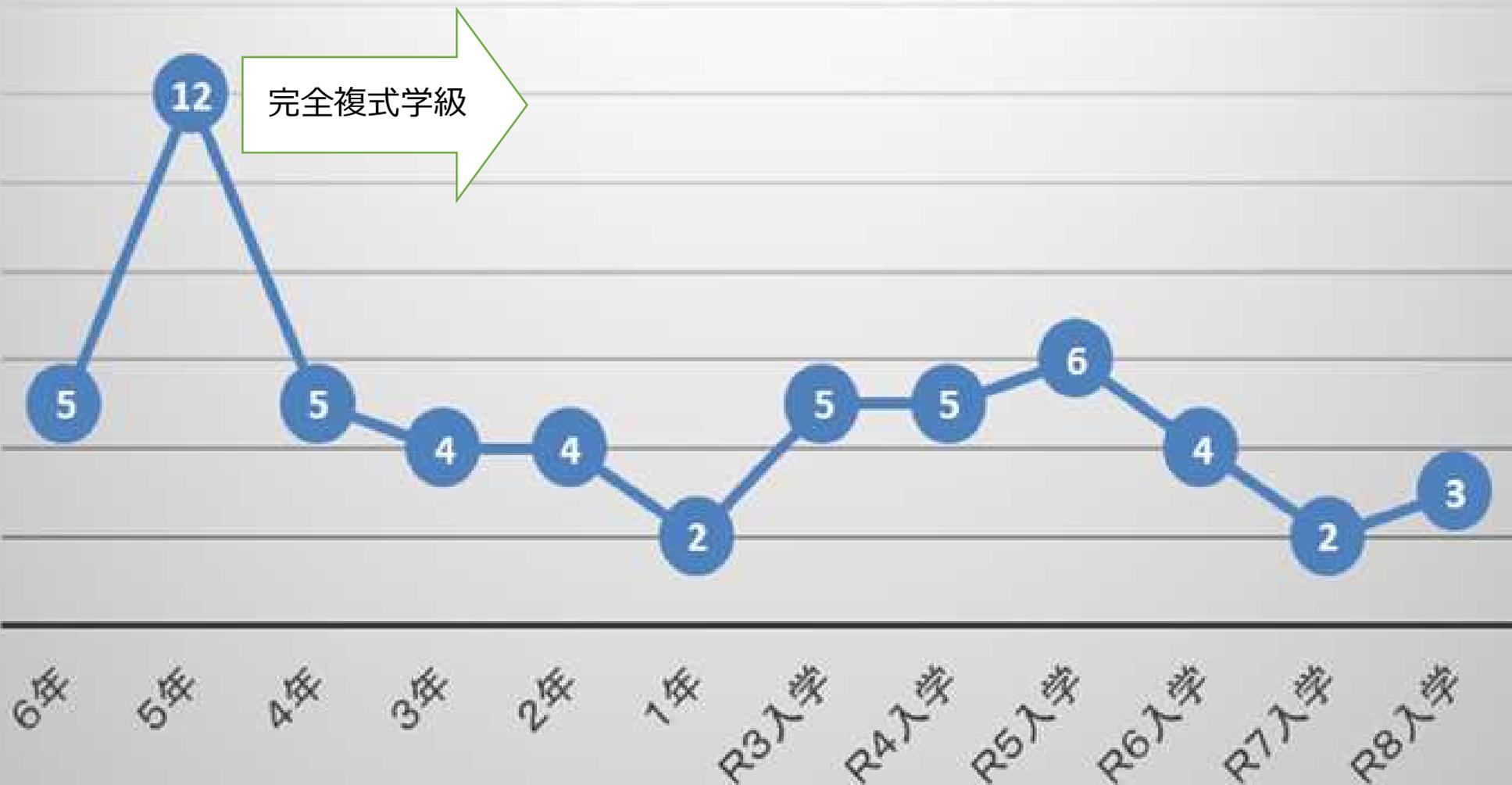
全校3学級規模想定

# 山田小学校



R10には複式  
学級を想定？

# 後閑小学校



# 山田中学校



部活動や学校行事が困難？

# 荘内小学校



# 荘内中学校



# 八浜小学校



# 大崎小学校



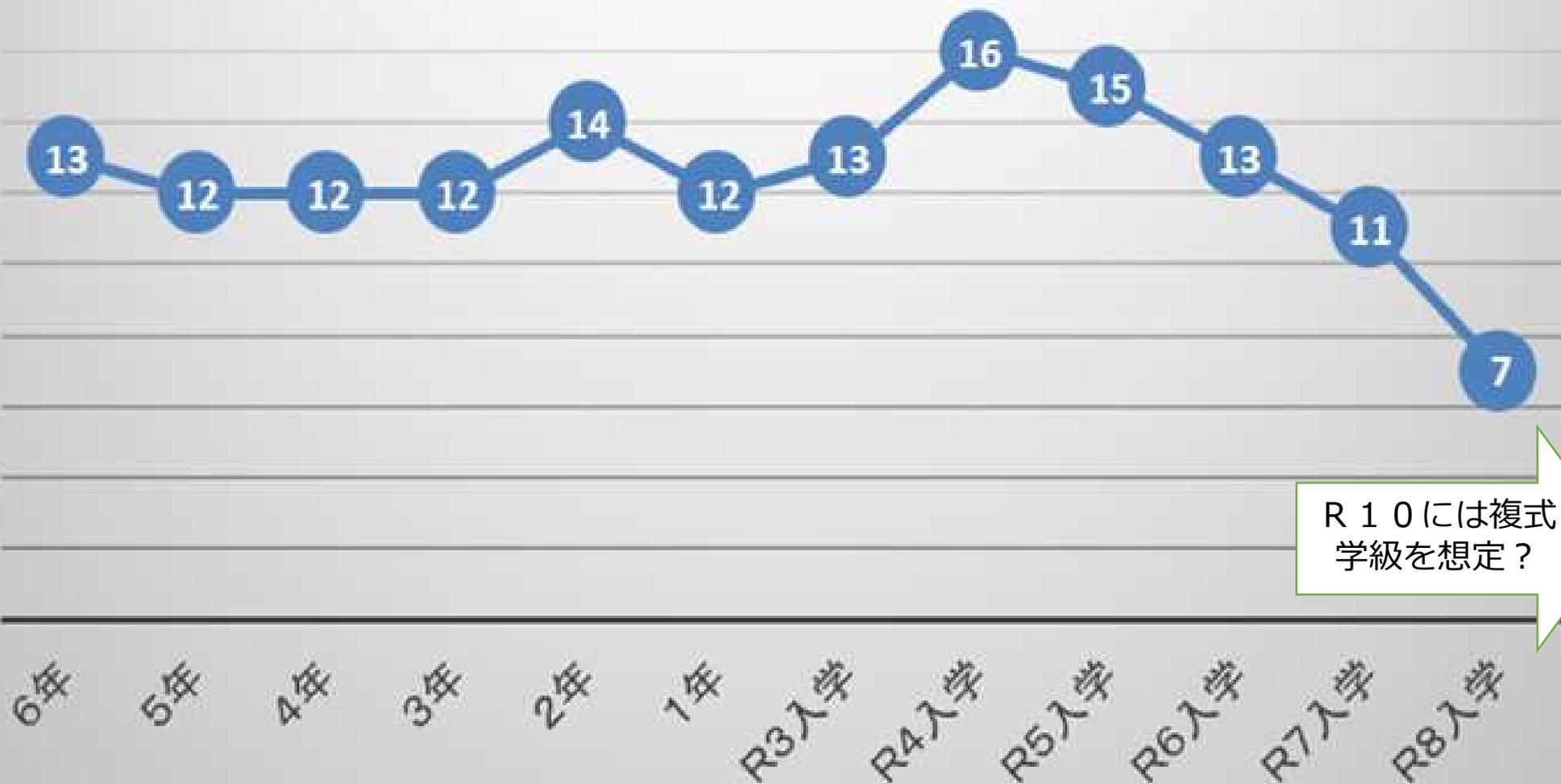
# 八浜中学校



全校3学級規模想定

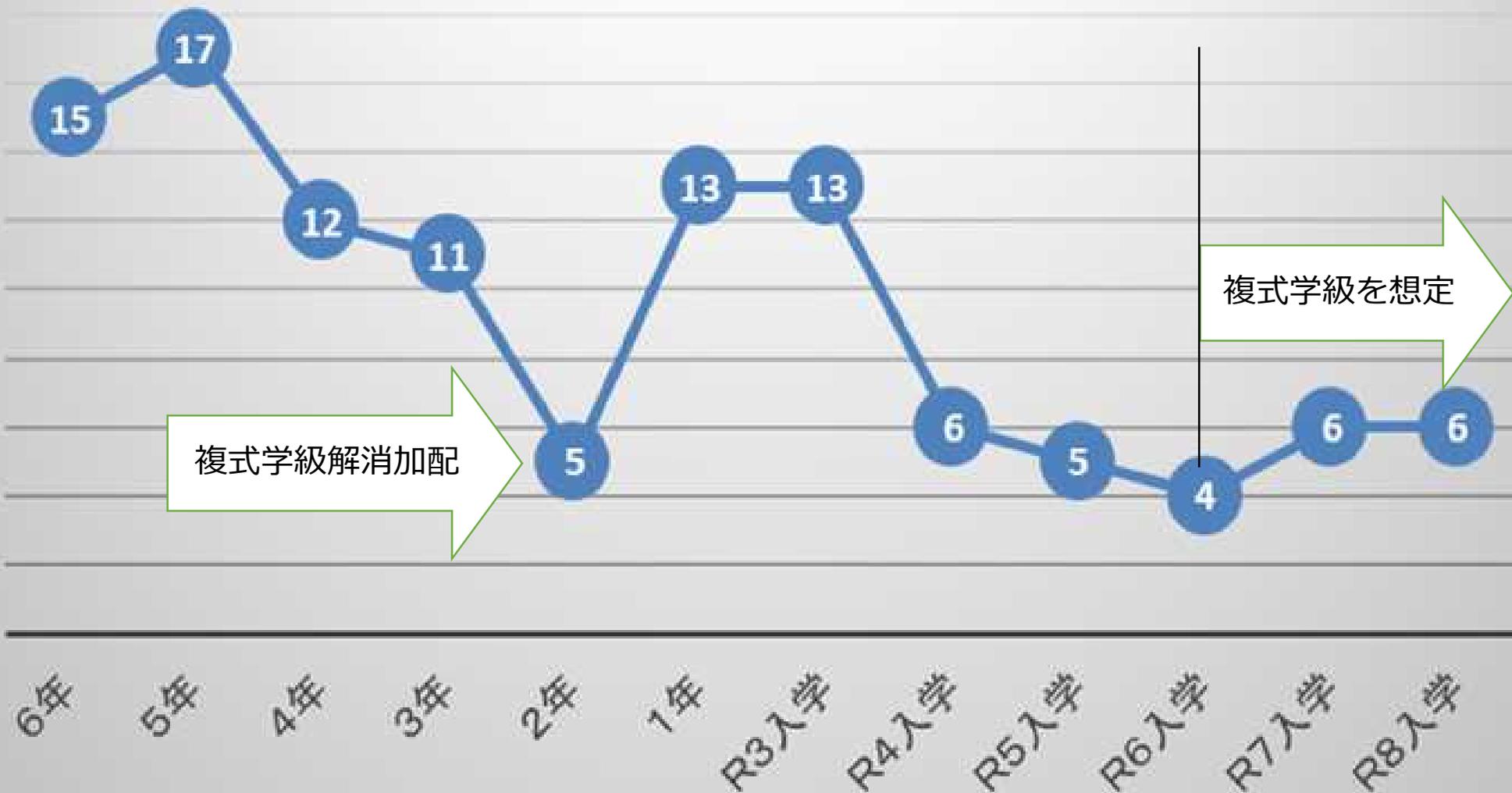
部活動や学校行事が困難?

# 胸上小学校



R10には複式  
学級を想定？

# 鉾立小学校



# 東兎中学校



部活動や学校行事が困難？

3年 2年 1年 R3入学 R4入学 R5入学 R6入学 R7入学 R8入学 R9入学 R10入学 R11入学 R12入学 R13入学 R14入学

## 地域懇談会における教育課題（児童生徒数減少・学校小規模化）に関する意見について

## 1 参加者数

学区	開催日	参加者数
宇野中学校区	11月17日	9名
玉中学校区	12月2日	23名
日比中学校区	11月19日	21名
山田中学校区	11月30日	14名
荘内中学校区	11月16日	6名
八浜中学校区	12月1日	6名
東兎中学校区	11月18日	16名

※オブザーバー参加の市議会議員、公民館長は除く

## 2 意見

宇野中学校区	一定規模数の教育が必要と思う。
	生徒が少ないのは仕方ないが教員が少ないのが問題である。
	玉野市の活性化が不可欠。産業の発達が必要である。
	重要な課題と認識した。
	学校は集団生活の場であるから、ある程度の規模は保つべきと考える。
玉中学校区	学校は地域と密接に関わりがあるため、すぐには不可能であるが、市内1カ所でバス異動すれば可能と考える。
	人数が多いクラス、少ないクラス、子どもによって違うと思うのでどちらがいいか考えにくい。
	子どもは減っているが、良きところを見つけて、未来を育よう。
	市内大企業の影響を考慮すべき。
	小学校だけでなく、中学校も合併を考えていくべき。地域のこともあるが、少人数ではできないこともあるのではないかと。
	小学校の統廃合は地理的になるべくしないで欲しい。
	今後、日比中と玉中が一緒になるとかあるのか。
	学校数は少なくても良い。
日比中学校区	学校の統廃合を検討すべき。
	定住人口の増加が望まれる。
	少人数のメリットを生かす教育へと変革する。
	適正規模による学力の向上を望む。
	深刻な問題で、いかに玉野に今後も残ってくれるかを考えて魅力あるアピールを行政から行ってほしい。
	日比・二日比の合併はいつ頃になるのか？、ならないのか？
	子どもが少なくなってきたので、義務教育学校はいいことだと思う。
	学校の合併を進める必要があるのでは？部活動のためにも。
少人数の良い面をしっかりと活用してほしい。	

日比中学校区	若い人から玉野の教育は素晴らしいと聞くと、仕事の面や交通の便の悪さで市街へ出たいと言われる。
山田中学校区	地域の意見、保護者、教職員の意見を十分聞いて急がず。現状でも構わないと思う。
	他校との交流の機会を増やしてほしい。
	子どもの数は減る一方なので山田と後閑が合併するのか等、不安がたくさんあります。
	部活動を選ぶ選択肢が少ないのは残念に思います。
	小規模のメリットを生かすこと、他校との連携による人間関係やコミュニケーションを豊かにする工夫を。
	ボランティア活動を通し、減少、小規模化を実感している。
	児童数が少ないからこそ逃げ場がないから人間としての柔軟性が身につくということもある。
今できることを考えてほしい。子供が少なくなり、コミュニケーションやイベントができにくい。他校との交流が頻繁にできるように問題点を解決する方法をお願いしたい。	
もっと人数がいれば、と思うことが多々ある。	
荘内中学校区	統廃合を考える時期かもしれない。
	荘内地区は規模が大きいですが、統廃合については地域の実情に応じて進めていく必要がある。
	荘内地区は義務教育学校と同じに考えられるのでは。
八浜中学校区	合併してはどうか？
	個人的に大きなコミュニティで鍛えてもらいたいと思うので、こじんまりせず合併して欲しい。
	親が働ける場所が減っているので市が活性化しないと減少は防げないと思う。
東兎中学校区	時代の流れの中で仕方ない現状かと思われる。
	企業を誘致して人口を増やしていけばよい。
	小規模化学級はきめ細やかな指導ができる。しかし、競争心の低下や強い意志の育成が難しい。
	複式学級になるのが16人以下といわれたが、30人ぐらいのクラスでなければ学習意欲にもつながらないのではないかな。
	統廃合は致し方ないと思う。
	教育だけの問題ではない。市も国も国土の発展を行っていくべき。
	住みたい玉野市になるよう魅力ある街づくりを進めるべき。せっかくの玉野の財産を生かして。
	鉾立小と胸上小のコミュニケーションをもっと増やすべき。
	耐震工事は必要最低限で良いと思う。
義務教育学校により、教員不足が少しでも解消すればいいと思う。	

## 義務教育学校について

児童生徒数の減少の中で、未来の学校教育の目的実現のため、**義務教育学校や中等教育学校等、新しい形の学校が全国で生まれている**。義務教育学校とは、小学校課程から中学校課程まで義務教育を一貫して行う学校である。学校教育法の改正により2016年に新設された学校教育制度。

★岡山市内の山南中学校+4小学校で義務教育学校設置(2022)、美咲町でも設置予定(2024)

地域と保護者で協議会を設置して、教育委員会へ要望

子どもの抱える課題の多様化、激動するこれからの社会を生きる力の育成のため、一貫教育のさらなる充実が求められている。

### 義務教育学校のポイント

- ・義務教育9年間で児童生徒を育成（1年生から9年生）
- ・繋がる教育の到達点（全教員で小1から中3まで一貫教育を推進）
- ・小学5・6年の教科担任制実現（より高度な学習を推進）
- ・異学年交流学習が進み、児童生徒の豊かな心を育成
- ・早期カリキュラムの導入
- ・小学校段階からの定期考査
- ・児童会と生徒会の一体化
- ・学校行事の小中一体化（小学生と中学生が一緒に運動会を行うなど）
- ・小学生と中学生の校則の統一化
- ・小中一貫の部活動
- ・教員同士で連携し、働き方改革推進

#### 【中四国の義務教育学校】

鳥取県

鳥取市立湖南学園

鳥取市立鹿野学園

鳥取市立福部未来学園

鳥取市立江山学園

島根県

松江市立義務教育学校八束学園

広島県

府中市立府中学園

府中市立府中明郷学園

竹原市立吉名学園

福山市立鞆の浦学園

高知県

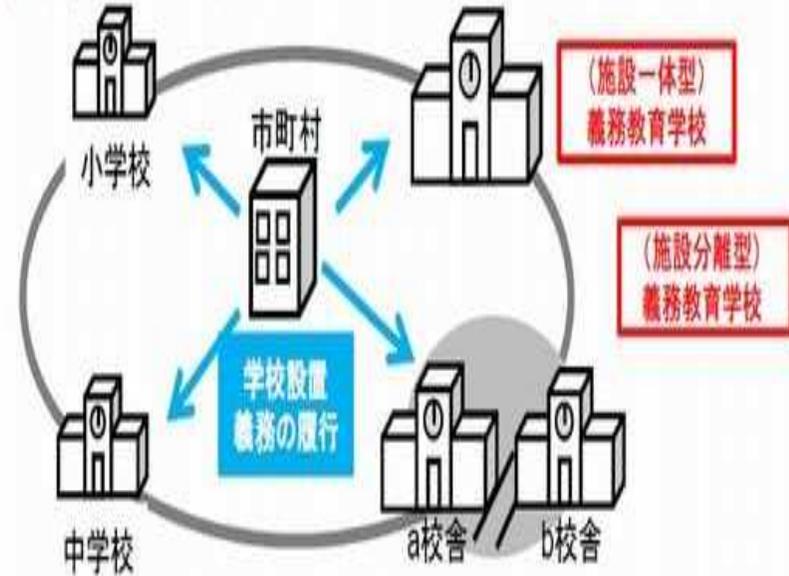
高知市立義務教育学校行川学園

高知市立義務教育学校土佐山学舎

(参考:義務教育学校のイメージ)



「中1ギャップ」をなくして  
安定して学べる環境と学力を!



上級生が下級生を指導する。下級生は上級生をモデルにする。



義務教育学校って?